

「日本の石」は？学会で多数決 「ひすい」を選定、水晶に19票差

2016年9月25日05時00分



緑色のひすい＝新潟県糸魚川市のフォッサマグナミュージアム

日本鉱物科学会は24日、ひすいを「日本の石（国石）」に選定した。この日金沢市であった総会で、会員が投票して決めた。学会の一般社団法人化に伴う記念事業の一環として企画された。

選考対象になっていたのは、日本で広く知られた国産の石で、鉱物科学や地球科学の分野にとどまらない世界的にも重要性を持つ石。学会は第1次候補の11種から、会員以外の意見も募って5種（花崗岩〈かこうがん〉、輝安鉱、自然金、水晶、ひすい）に絞り込み、この日の投票に臨んだ。第1回投票の上位2種で決選投票がおこな

われ、71票のひすいが52票の水晶を上回った。

ひすいが国石にふさわしい条件として、学会は（1）日本でも採れる宝石として有名（2）有名な緑に加えてラベンダー色などの多様性と半透明の風合い（3）世界で最古のひすい文化（約7千年前）となったこと――などを挙げている。

ひすいは2008年に新潟県糸魚川市が「市の石」に、今年5月に日本地質学会が「新潟県の石」に選んでいる。糸魚川市の米田徹市長は「ひすいを郷土の誇りと宝としてきた糸魚川市、また、北海道から九州にかけて点在するひすいの原産地を持つ地域にとって、これ以上の喜びはありません」とコメントした。

（増田洋一）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.